

豊川流況総合改善事業に関する報告

平成20年2月27日

国土交通省中部地方整備局
豊橋河川事務所

目 次

1. ダム等の管理に係るフォローアップ制度と事後評価について.....	1
2. 豊川流況総合改善事業の概要.....	2
3. 豊川流況総合改善事業 施設の諸元.....	3
4. 豊川流況総合改善事業の事後評価 事後評価の項目.....	3
① 費用便益分析.....	3
② 事業の効果の発現状況.....	4
③ 事業実施による環境の変化.....	4
④ 現時点における評価と課題.....	5
⑤ 改善措置の必要性.....	5
⑥ 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性.....	5
(参考) 委員からの主な質問、意見等について.....	5

1. ダム等の管理に係るフォローアップ制度と事後評価について

◆ダム等フォローアップ委員会の目的

ダム等について、ダム等フォローアップ委員会を設け、委員会の意見を聴いて、(中略)当該ダム等の適切な管理に資するとともに、ダム等の**管理の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図る**ことを目的とする。

「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」の対象となるダム事業において、当該制度に基づいた手続きが行われる場合については、本要領に基づく**事後評価の手続きが行われたものとして位置づける**ものとする。

◆事業評価監視委員会とダム等管理フォローアップ委員会

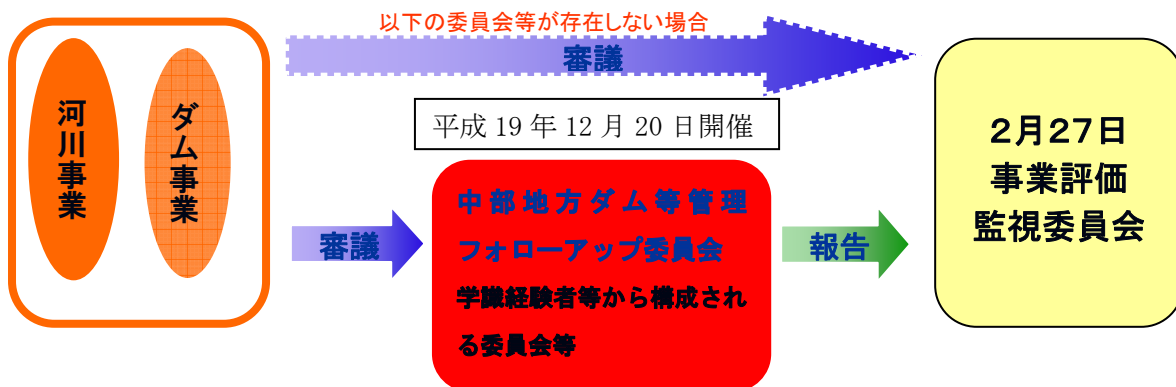
国土交通省所管公共事業の事後評価実施要領（平成15年3月31日通達）

第4 1項（6）

河川及びダム事業の事後評価実施要領細目（平成15年1月9日通達）

第4 1項（4）ダム等の管理に係るフォローアップ制度の活用について

実施要領第4 1（6）の規定に基づき手続きを行った場合には、**その結果を事業評価監視委員会に報告する**ものとする。



中部地方ダム等管理フォローアップ委員会委員

	氏名	所属	専門分野
委員長	藤田 裕一郎	岐阜大学教授	河川
委員	石田 典子	名古屋女子大学助教授	動植物プランクトン
	沖野 外輝夫	早稲田大学教授	水質
	奥野 信宏	中京大学教授	社会経済
	駒田 格知	名古屋女子大学教授	魚類
	桜井 善雄	信州大学名誉教授	植物
	杉戸 大作	(財)廃棄物研究財団理事長	水資源
	辻本 哲郎	名古屋大学大学院教授	河川
	中村 浩志	信州大学教授	鳥類
	長谷川 明子	ピオトーブを考える会代表	ピオトーブ
	松尾 直規	中部大学教授	水質

2. 豊川流況総合改善事業 事業概要

豊川流況総合改善事業は、愛知県新城市地先において、寒狭川堰及び寒狭川導水路を建設することにより、下流既得用水等の補給を行い、併せて、河川流水の総合的な運用を実施するための必要なシステムの整備を行うことにより、豊川における流況改善と取水の安定化をはかり、豊かで潤いのある河川環境をつくり出すことを目的とする事業です。

本事業は平成4年度より着手し、平成14年度に完成しています。

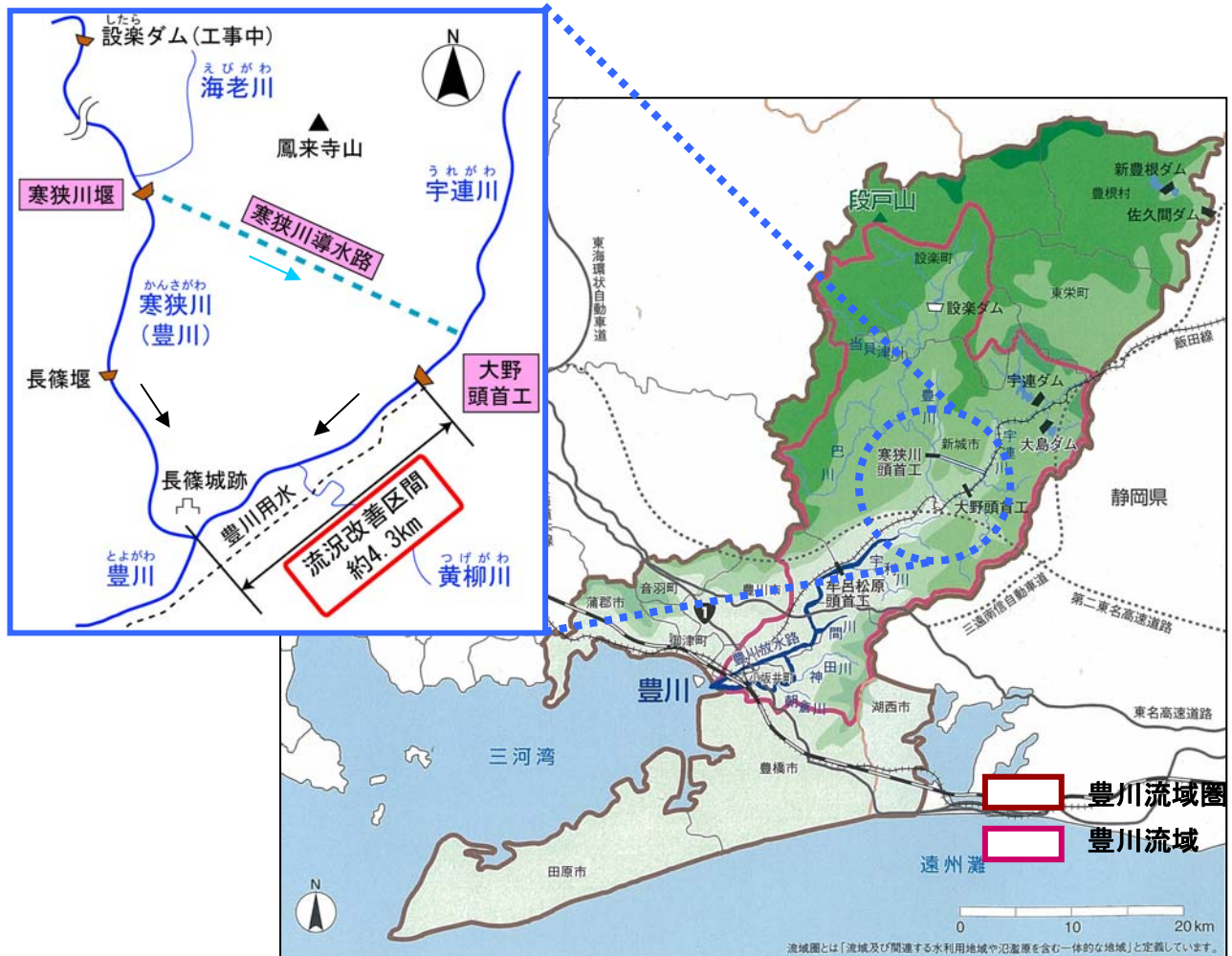


図 2-1 豊川流況総合改善事業実施区域

流水の正常な機能の維持

■寒狭川堰・寒狭川導水路

寒狭川堰により不特定容量を確保し、寒狭川導水路を建設することにより、寒狭川堰下流及び大野頭首工下流の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図ります。

■河川流水の総合的運用

河川流水の総合的な運用を図るために必要なシステムの整備を行い、豊川水系における適確かつ効率的な水管理を図ります。

3. 豊川流況総合改善事業 施設の諸元

豊川流況総合改善事業に関連する施設の諸元を表 3-1 に示します。

表 3-1 寒狭川堰の諸元

河川	河 川 名	豊川水系豊川（寒狭川）
堰	位 置	愛知県新城市
	型 式	可動堰
	堤 高	3.9 m
	堤 長	58.0 m
導水路	型 式	開水路トンネル
	導 水 路 長	5,315m

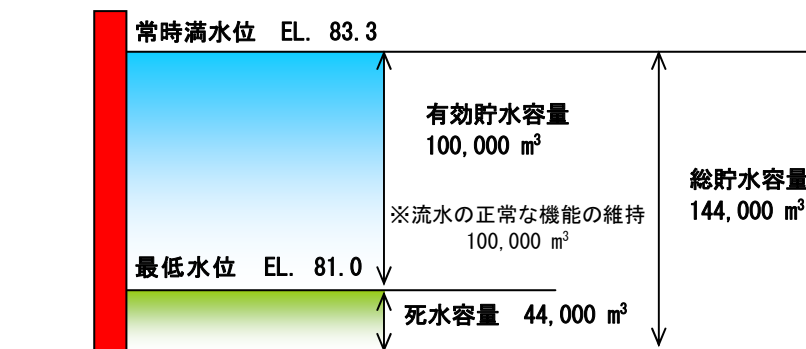


図 3-1 寒狭川堰貯水池容量配分図

4. 豊川流況総合改善事業の事後評価

①費用便益分析

豊川流況総合改善事業における費用便益比は、表 4-1 に示すとおり 1.76 で、十分な事業効果が得られているものと考えられます。

表 4-1 豊川流況総合改善事業の費用便益比（流水の正常な機能の維持分）

項 目	豊川流況総合改善事業 平成 19 年度時点
事業費 (C)	116.4 億円
事業効果 (B)	205.0 億円
費用便益比 (B/C)	1.76

②事業の効果の発現状況

寒狭川堰からの導水による大野頭首工からの放流日数を図 4-1 に示します。

流況改善を行わない場合の放流日数は年間約 50 日（H15 年度～H18 年度平均）でしたが、
事業実施により年間約 160 日（H15 年度～H18 年度平均）へ増加しました。

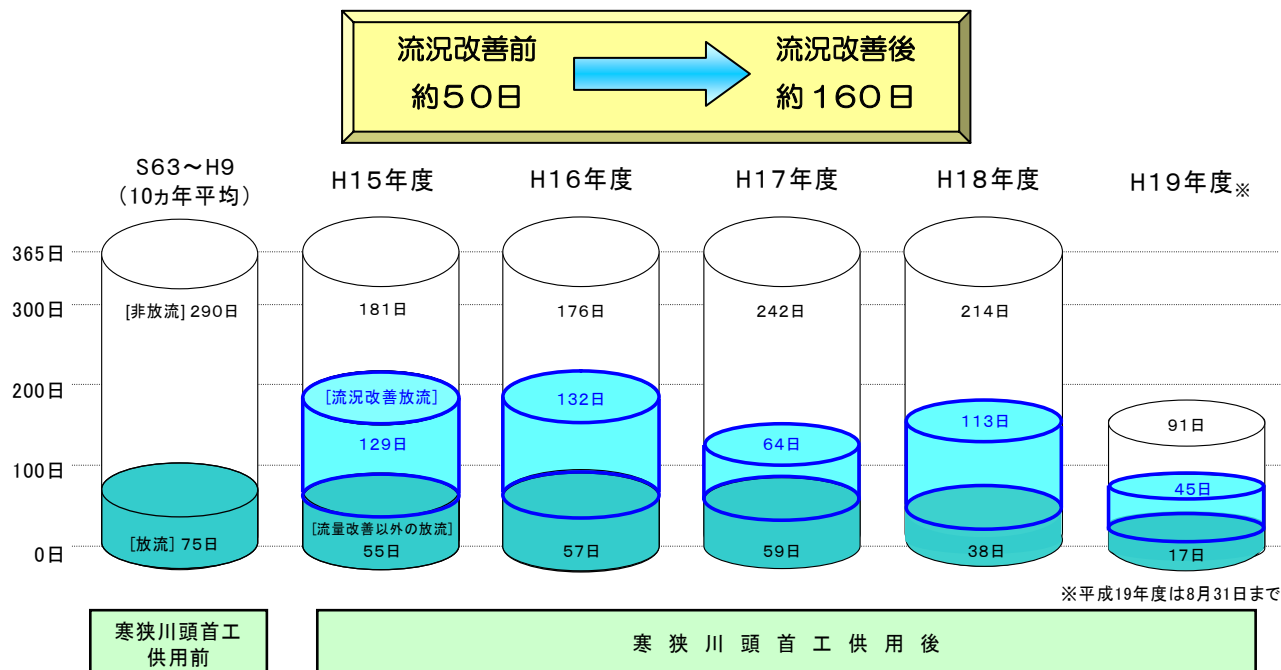


図 4-1 大野頭首工からの放流日数（年度別）



③事業実施による環境の変化

■流況改善区間の変化：

- **緑藻の繁茂が抑制**され、藻類の新鮮な状態が保たれた。
- 魚類の重要な**餌資源となる昆虫類の供給量が増加**した。
- **大野頭首工上下流の水温差が縮小**した。また、寒狭川堰上下流での水温差はなかった。
- 流量増加による**河道の水面積の拡大や瀬切れの解消**が確認された。これが**アユの餌場や生息場の拡大**につながっていた。
- 水質は環境基準値 (PH, DO, BOD, SS) を満足している。

④現時点における評価と課題

豊川流況総合改善事業は十分効果を発揮している。

今後のフォローアップ調査は、豊川上流域の流況改善状況と、水質・生物の変化等を把握する基礎調査、また必要に応じてテーマ調査を実施し、定期報告するものとします。

⑤改善措置の必要性

- ・現時点では、事後評価制度に基づく改善措置の必要性はありませんが、今後もよりよい管理に向けて必要な検討を行っていきます。

⑥同種事業の計画・調査のあり方や 事業評価手法の見直しの必要性

- ・流水の正常な機能の維持に関する効果等に対する構成要素については、今後も検討していきます。
- ・費用便益分析に関する評価分析手法については、今後も検討していきます。

(参考) 委員からの主な質問、意見等について

■流水の正常な機能の維持に係る便益の算定において、設楽町を受益世帯に入れた理由は。
→本事後評価は、豊川に接している市町村を対象とした。

■B/C におけるコストに事業実施による生物への負荷がマイナスのコストとして計上されていない。マイナスコスト分も含めて、評価すべきではないか。

→環境に関する評価分析手法が確立されていないので、今後も検討する必要があると認識している。